

平成 30～令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
総合研究報告書

HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発  
ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究

研究代表者：喜多恒和（奈良県総合医療センター周産期母子医療センター長兼産婦人科統括部長）

研究分担者：喜多恒和 奈良県総合医療センター周産期母子医療センター兼産婦人科  
センター長兼統括部長  
吉野直人 岩手医科大学微生物学講座感染症学・免疫学分野 准教授  
杉浦 敦 奈良県総合医療センター産婦人科 副部長  
田中瑞恵 国立国際医療研究センター小児科 医員  
山田里佳 JA 愛知厚生連海南病院産婦人科 外来部長  
定月みゆき 国立国際医療研究センター産婦人科 産科医長  
大津 洋 国立国際医療研究センター臨床疫学研究室 室長

研究要旨：

HIV 感染妊娠の早期診断治療と母子感染の回避を目的として、HIV 感染妊婦とその出生児に関する全国 1 次調査（産婦人科約 1,150 病院、小児科約 2,250 病院）を 3 年間継続して行い、産婦人科および小児科の 2 次調査の結果、2019 年末までに転帰が判明したのは前年から 36 例増加し、データベースは 1,106 例となった。分担研究 8 課題において着実な進捗が得られた。すなわち 1) 研究計画の適切な軌道修正し、ホームページ運営により HIV 母子感染に関する最新情報を提供し、HIV 感染に関する妊婦の知識レベルの低さの広域的・経時的に検証し、教育啓発資料の提供による介入効果を推測した。2) 妊娠初期における HIV スクリーニング検査率 100% を岐阜県以外で達成し、新型コロナウイルス感染症拡大による HIV 母子感染予防対策への影響は回避された。3) HIV 感染妊娠報告数の減少傾向の兆しがみられ、妊娠中や授乳中の母体の HIV 感染に対する母子感染予防対策の必要性が示唆された。4) HIV 感染妊婦と出生児の長期フォローアップのためのコホートシステムが進行している。5) 「HIV 母子感染予防対策マニュアル」改訂第 8 版と「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」の改訂第 2 版を刊行した。6) HIV 感染妊娠の診療体制に関する現状調査の解析を行い、わが国に適切な分娩様式を中心とする診療体制の提案をした。7) HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関して、若者を対象とした教育啓発活動としての A3 折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキーあなたはどこまで理解しているか!？」を発刊し、妊娠初期妊婦へ配布し、さらに A6 サイズ小冊子「HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」も発刊した。8) 産婦人科・小児科の全国 2 次調査回答のウェブ化とデータベースの IT 化および HIV 感染女性とその児のコホート調査のシステム構築と支援を行った。

A. 研究目的

HIV 感染の妊娠・出産・予後に関して全国調査により HIV 感染妊娠例のデータベースを更新し、わが国における動向を解析する。さらに HIV 感染女性とその児のコホート研究により、抗 HIV 治療の長期的影響を検討する。HIV 等の

性感染症と妊娠に関する情報を収載した国民向けリーフレットや小冊子を作成し、正確な情報の教育啓発活動の資料とし、それらの有効な拡散方法を開発する。既刊の「HIV 母子感染予防対策マニュアル」や「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」の改訂により、わが国独自

の HIV 感染妊娠の診療体制を整備し均てん化する。さらに全国調査回答をウェブ化し、データベース管理やコホート研究における IT 支援を行う。

## B.研究方法

1) HIV 感染妊娠に関する研究の統括と成績の評価および妊婦の HIV 感染に関する認識度の実態調査（喜多アンケート分担班）：

①研究分担者相互による研究計画評価会議や、研究協力者も加えた研究班全体会議を適時行い、各研究分担の進捗状況と成績を相互評価し、年度ごとあるいは年度にまたがる研究計画の修正を行う。

②ホームページの継続的運営により研究成果を公開することで、HIV 感染妊娠に関わる国民の認識と知識の向上に寄与する。

③地域や医療レベルの異なる 6 か所の定点施設および奈良市内 5 か所の有床診療所の妊婦に対し、HIV 感染に関するアンケート調査を毎年継続的に実施し、偽陽性に関する理解度など妊婦の知識レベルの変化を把握し、教育啓発活動に資する。

2) HIV 感染妊婦とその出生児の発生動向および妊婦 HIV スクリーニング検査等に関する全国調査（吉野分担班）：

①2018 年～2020 年の 3 年間、全国の産婦人科病院約 1150 施設と小児科病院約 2250 施設を対象に、HIV 感染妊婦とその出生児の発生動向や妊婦における HIV を含む感染症のスクリーニング検査実施率を調査した。さらに 2018 年には全国の産婦人科診療所 3091 施設も調査対象に加え未受診妊婦数や梅毒感染妊婦数を調査し、全国自治体 1741 市町村を対象に、妊婦の HIV スクリーニング検査の公費負担状況を調査した。2019 年には妊娠中期・後期における HIV スクリーニング再検査率やその他の感染症検査率を、2020 年には新型コロナウイルス感染症拡大による HIV 感染妊婦の診療への影響を調査した。

②産科班（杉浦分担班）や小児科班（田中分担班）との共同により、毎年 HIV 母子感染全国調査報告書を作成し、全国の産科小児科診療施設や地方自治体などの関連機関に配布することにより、診療体制や医療行政の改善に寄与した。

3) HIV 感染妊娠に関する臨床情報の集積と解析およびデータベースの更新（杉浦分担班）：

①毎年度の吉野分担班による全国 1 次調査結果の報告を受け、HIV 感染妊婦の診療施設に対し産科 2 次調査票を郵送し、臨床情報の集積を行う。

②1 次調査班（吉野分担班）や小児科班（田中分担班）との共同により、集積された HIV 感染妊婦および出生児の臨床情報を照合し、産婦人科小児科統合データベースの更新と解析を行い、HIV 感染妊娠の発生動向を毎年度把握する。

4) HIV 感染女性と出生児の臨床情報の集積と解析およびウェブ登録によるコホートシステムの全国展開（田中分担班）：

①毎年度の吉野分担班による全国 1 次調査結果の報告を受け、出生児の診療施設に対し小児科 2 次調査票を郵送し、臨床情報の集積・解析を行う。

②HIV 陽性女性と出生した児の予後に関するコホート調査のためのウェブ登録システム（REDCap、国立国際医療研究センター内 JCRAC データセンターとの協働）は国立国際医療研究センターで 2017 年 8 月から稼働済みである。このシステムを報告症例数が多く年間報告数の約半数を占める全国 4 か所の医療施設へ展開し、2020 年 4 月から登録を開始した。

5) HIV 感染妊娠に関する診療ガイドラインの改訂と HIV 母子感染予防対策マニュアルの改訂（山田分担班）：

①平成 26 年（2014 年）3 月発刊の「HIV 母子感染予防対策マニュアル」第 7 版を改訂し、第 8 版を平成 31 年（2019 年）3 月に刊行する。

②わが国の医療経済事情や医療機関の対応能力を考慮した、欧米とは異なるわが国独自の「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」初

版（平成 30 年（2018 年）3 月発刊）を日本産婦人科感染症学会の監修のもと改訂し、令和 3 年（2021 年）3 月に第 2 版を刊行する。

6) HIV 感染妊婦の分娩様式を中心とした診療体制の整備と均てん化（定月分担任）：

①平成 30 年度は全国の HIV エイズ診療拠点病院 382 施設および総合周産期母子医療センター 108 施設と地域周産期母子医療センター 298 施設を対象に HIV 感染妊婦の受け入れ状況を問う 1 次アンケート調査を行った。さらに令和元年度は、1 次調査において HIV 感染妊婦の分娩を受け入れ可能と回答した 109 施設を対象に、医師職・看護職双方から HIV 感染妊婦の経膈分娩受け入れの可能性とその条件および受け入れ状況の研究班ホームページでの公開の許諾を調査した。

②山田分担任とともに、わが国における HIV 感染妊婦の経膈分娩の可能性について、わが国の医療体制面から検討し、ガイドライン改訂の資料とした。

7) HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発（喜多啓発分担任）：

①全国各地で開催されているエイズ文化フォーラムや学園祭への参加、および市民公開講座等を企画して、HIV 感染に関する情報と研究成果を周知することにより、国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を図る。

②妊婦の HIV スクリーニング検査や妊婦健診の重要性および各種性感染症に関する情報の普及啓発を目的に、A3 折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキーあなたはどこまで理解しているか!？」を 2020 年 3 月に発刊し、周知拡散する。さらに、A6 サイズ 34 ページの小冊子「HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」を 2021 年 3 月に発刊し、リーフレットとともに周知拡散する。

③平成 30 年 7 月に取得した Twitter アカウント (<https://twitter.com/HIVboshi>) のコンテンツを適時増加し、フォロワーを増やすことで HIV をは

じめとする性感染症の情報提供を行う。

8) HIV 感染妊娠に関する全国調査とデータベース管理の IT 化とコホートシステムの支援(大津分担任、令和元年度から新規設定)：

①HIV 感染妊娠の発生に関する全国 1 次調査（吉野分担任）、産婦人科・小児科 2 次調査（杉浦分担任、田中分担任）における回答のウェブ化およびデータベース管理の IT 化を目指してシステムを構築する。

②平成 29 年（2017 年）8 月に登録を開始した HIV 感染女性と出生児のコホート調査（田中分担任）のシステム支援を行うとともに、多施設コホート調査（田中分担任）のシステムを構築し、令和 2 年（2020 年）4 月登録開始以降その支援を行う。

（倫理面への配慮）

調査研究においては、平成 29 年 2 月改正告示の文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守しプライバシーの保護に努めた。

## C. 研究結果

1) HIV 感染妊娠に関する研究の統括と成績の評価および妊婦の HIV 感染に関する認識度の実態調査（喜多分担任）：

①研究代表者、研究分担者およびアドバイザーによる研究計画評価会議を年 2 回、研究班全体会議も年 2 回開催し、各研究分担の研究計画を修正した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、会議はすべてウェブ開催となったが、検討成果に影響はなかった。

②ホームページの運営では、「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」改訂第 2 版、A6 サイズ小冊子「HIV や梅毒をはじめとする性感染症のすべてが簡単にわかる本」、研究報告書および各種学会発表スライドや社会的最新情報などを掲載した。ホームページの閲覧数は毎月 2000 件前後で推移し、新情報の掲載などのホームページの更新と閲覧数の変動が連動しているかどうかは明確ではなかった。Q&A、ガイド

ライン・マニュアル・リーフレット、HOMEのコーナーの順に閲覧数が多く、資料ダウンロードや研究報告書のコーナーの閲覧数は少なかったが、情報掲載によりガイドライン・マニュアル・リーフレットのコーナーの閲覧比率はやや上昇していた。

③妊娠初期の妊婦を対象とした HIV スクリーニング検査に関するアンケート調査の結果は、スクリーニング検査が陽性であっても 95%以上は偽陽性であることを知っていたのはたった 6%程度であることなど、定点 6 施設で行った 3 年間の調査結果はほぼ同様であり、経時的な差や調査施設の地域差や診療機能差はほとんどみられなかった。妊婦の HIV 感染妊娠に関する知識レベルは著しく低いままであることが確認された。令和 2 年度は定点施設に加えて奈良市内の有床診療所 5 施設でもアンケート調査を実施し、事前にリーフレットを配布したが結果は同様であった。令和 2 年度のアンケートではリーフレットの事前配布に関する設問を追加した。その結果、アンケート前にリーフレットを読んでいたのは、定点で 45.0%（未配布修正後 65.1%）、奈良市内で 82.4%もあり、既読者のうち理解度が 50%以上と回答したのは定点・奈良市内共に 90.8%と高率であった。近年の梅毒患者の増加や梅毒感染妊婦の治療効果および風疹ワクチンの効果を問う設問に対しては、80%以上の正答率を示した。

2) HIV 感染妊婦とその出生児の発生動向および妊婦 HIV スクリーニング検査等に関する全国調査（吉野分担班）：

①調査対象分娩数は、産婦人科病院を対象とした全国 1 次調査では 3 年間を通じて約 40 万分娩で、2018 年調査では診療所での約 26 万分娩を加えた約 65 万分娩であった。病院での妊婦 HIV スクリーニング検査実施率はこの 3 年間すべてで 99.7%以上で、2020 年度調査では 99.9%であり、100%ではなかったのは岐阜県の 91.7%のみであった。病院調査を開始した 1999 年（73.2%）と比較すると 26.7%の上昇が認めら

れた。3 年間の産婦人科 1 次調査から各 72 例、58 例、32 例の HIV 感染妊娠が、小児科 1 次調査から各 43 例、34 例、29 例の HIV 感染妊婦からの出生児の報告があり、それぞれの分担班の 2 次調査のために情報提供がなされた。報告数には多くの重複が含まれているが、年々減少傾向であった。2017 年の未受診妊婦数は、314 施設（37.1%）で 946 例であった。また 2017 年の梅毒感染妊婦数は 199 病院から 313 例、169 診療所から 243 例が報告された。頻度は 0.085%で、都道府県別では 0%～0.29%と、人口とは無関係と思われる地域差があった。全国自治体の約 7 割で 2009 年までに妊婦の HIV スクリーニング検査の公費負担が開始されていた。しかし HIV 母子感染に関する啓発は 32.9%の自治体に限られ、HIV 感染妊婦が少ないことや教育啓発資料の不足が原因であった。2019 年に調査した妊娠中期・後期における HIV スクリーニング再検査率は、26 病院の 2.9%であった。同年のその他の感染症検査率は、クラミジア、HCV、HTLV-1、GBS は 99%以上であったが、トキソプラズマは 46.6%、CMV は 12.4%のみであった。新型コロナウイルス感染症拡大により、121 施設（13.9%）で新型コロナウイルス感染妊婦の診療が行われていた。また新型コロナウイルス感染症拡大により全国の 30%程度の施設では産婦人科診療が縮小されていたが、HIV 感染妊婦の診療を行っていた 16 施設においては、診療制限などによる母子感染予防対策への影響はなかった。

②毎年度 HIV 母子感染全国調査報告書を作成し、全国 1 次調査に同封して全国の産婦人科・小児科診療施設に郵送するとともに、保健所や地方自治体などの関連機関に配布した。

3) HIV 感染妊娠に関する臨床情報の集積と解析およびデータベースの更新（杉浦分担班）：

①全国産婦人科 2 次調査を行い、既報告や妊娠中の報告を得た。2020 年妊娠転帰例は 17 例で、統合データベースにおける 2019 年内妊娠転帰数の 27 例と比較すると大きく減少することが

推測される。

②産婦人科データと小児科データの照合の結果、令和元年（2019年）末までに妊娠転帰となったHIV感染妊娠数は、平成30年（2018年）末までの1,070例から36例増加し1,106例となった。双胎が10例、品胎が1例含まれ、出生児数は774児となった。1997年以降年間30例以上の報告が継続していたが、2019年には27例に減少した。それらの詳細な臨床情報をデータベース化した。東京が295例、次いで神奈川県107例、愛知106例、千葉90例、大阪71例と大都市圏が多数を占める。これまでHIV感染妊娠の報告が無いのは和歌山・佐賀の2県のみとなった。日本国籍のHIV感染妊婦は増加傾向で、2015~2019年には59.5%を占めていた。母子感染は予定帝王切開の7例、緊急帝王切開の9例、経膈分娩の38例、分娩様式不明の6例、計60例が確認されている。cARTが普及した2000年以降も1~2例であるがほぼ毎年報告されており、近年は妊娠初期スクリーニング検査陰性例からの母子感染例が散発している。しかし、2000年以降に感染予防策として「妊娠初期HIVスクリーニング検査」「抗ウイルス薬3剤以上」「予定帝王切開」「児の投薬あり」「断乳」の全てを施行した例での母子感染例は1例もなかった。2000年以降に生じたHIV母子感染19例は、全て妊娠後期や分娩後に初めて母体のHIV感染が判明した例から生じている。そのうち6例では、妊娠初期のHIVスクリーニング検査は陰性であったため、母子感染予防対策は全く講じられていなかった。

4) HIV感染女性と出生児の臨床情報の集積と解析およびウェブ登録によるコホートシステムの全国展開（田中分担班）：

①小児科病院2次調査による報告数は減少傾向にある。2020年調査では新規16例、過去未報告7例の計23例の臨床情報を得て、データベースの更新に供した。品胎1例、双胎1例が含まれていた。全例で母子感染予防対策が講じられており、分娩前のウイルスコントロールは良

好で、新たな感染児の報告はなかった。

②コホート研究 The Japan Woman and Child HIV Cohort Study(JWCICS)では、平成29年8月から国立国際医療研究センターでの登録が進行し、令和3年3月現在27例が登録済みで、医療者側と患者側の双方から、健康状態のウェブ入力が行われている。このシステムを報告症例数が多く年間報告数の約半数を占める全国4か所（国立国際医療研究センター、大阪市立総合医療センター小児医療センター、国立病院機構の名古屋医療センターと大阪医療センター）の医療施設へ展開する多施設コホート研究は、令和2年4月に国立国際医療研究センターの倫理審査が承認され、令和3年2月現在24例が登録済みである。

5) HIV感染妊娠に関する診療ガイドラインの改訂とHIV母子感染予防対策マニュアルの改訂（山田分担班）：

①平成31年3月には「HIV母子感染予防対策マニュアル」第8版を刊行した。近年のインターネットによる医療情報の利便性から、抗HIV薬の添付文書などは削除し、大きく簡略化した。さらに令和3年3月、日本産婦人科感染症学会の監修のもと「HIV感染妊娠に関する診療ガイドライン」改訂第2版を刊行し、研究班ホームページに掲載した。マニュアルと項目を連動させ、初版の要約と解説を追加改訂し、推奨度も付与した。米国や英国のガイドラインを参考にし、cARTの最新情報が掲載されている。分娩様式については定月分担班の全国調査の結果を踏まえ、帝王切開分娩を推奨することとし、患者および分娩施設が一定の条件を満たした場合は、経膈分娩も考慮されることとした。

6) HIV感染妊婦の分娩様式を中心とした診療体制の整備と均てん化（定月分担班）：

①平成30年度の1次アンケートと令和元年度に行った2次アンケートにて、HIV感染妊娠を受け入れることが可能な109施設のうち、研究班ホームページへの掲載に同意が得られた60施設の一覧を令和2年度にホームページ上で公

開した。

②ガイドラインでの適応基準を満たす症例における経膈分娩を実施するためには、母子感染リスクの正確な理解とマニュアルの周知を行い、産科医を含む医療スタッフの不足を解消する必要がある。したがってガイドライン第2版においては、分娩取り扱い施設の現状を重視し、分娩様式は選択的帝王切開術を推奨することとした。

7) HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発（喜多分担班）：

①平成30年度はAIDS文化フォーラム in 横浜（参加者11名）と下関医療センター（同30名）で講演会を開催し、令和元年度はAIDS文化フォーラム in 横浜（同30名）で講演会、AIDS文化フォーラム in 京都（同5名）で出展を行った。大学祭は日本大学医学部（啓発カード100枚配布）、東京理科大（参加者5名）で出展や講演会を行った。さらに令和2年2月には那覇市で市民公開講座（同18名）を開催した。しかしいずれの開催でも参加者は不十分で、企画の宣伝不足、主な対象である若者の関心の低さ、一般国民にとっての感染症対策への重要度序列の低さなど種々の検討課題が残った。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、AIDS文化フォーラムへの参加や市民公開講座の開催など、オンサイトでの啓発活動は全く行えなかった。

②令和元年度に発行したA3折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキ一君はどこまで理解しているか!？」を令和2年度に喜多アンケート分担班による妊婦アンケート調査の定点施設および奈良市内有床診療所で配布し、妊婦の教育啓発を図ることで知識レベルの向上を目指した。「HIVや梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」は令和3年3月に発行し、リーフレットとともに研究班ホームページで公開中である。

3. Twitter アカウントは定期的に更新され、HIVに関する新情報を発信している。令和3年3月

現在、投稿コンテンツは47件で、フォロワー数も順調に増加し、272名である。

8) HIV感染妊娠に関する全国調査とデータベース管理のIT化とコホートシステムの支援(大津分担班)：

①全国一次調査回答のウェブ化は令和元年度にいったん断念したが、令和2年度は再検討中である。産婦人科と小児科の二つの2次調査の調査項目を統合し、調査フォームのウェブ化を実施した。令和3年度調査から二つの2次調査はウェブ回答とするが、回答者ごとの利便性と回答率確保の観点から、当面は紙面回答ないしはウェブ回答のハイブリッド形式とすることとした。

②コホート研究へのシステム支援は、REDCapを用いて、複数の診療科から感染母子の情報を取得するフローをモデル化し、システム化を実施した。国立国際医療研究センターのみでのパイロットコホート研究から、令和2年度には多施設コホート研究に移行した。引く続きシステム支援を行い、登録数は徐々に増加中である。登録患者への調査実施において、情報の精度は向上しつつあることが推察された。

#### D. 考察

1) 本研究班では、HIV感染妊娠に関する疫学調査を骨幹とし、HIV感染女性を対象としたコホート調査やアンケート調査も行い、医療者向け診療ガイドラインや母子感染予防対策マニュアルの刊行と改訂、さらにはHIVをはじめとする性感染症の情報を提供するリーフレットや小冊子の刊行などの国民への教育啓発法の開発も行っている。研究分担班内での研究推進のみならず、研究計画評価会議による研究分担者間での軌道修正は、各分担研究課題の完遂と成果をより高めることに有効であったと考える。本研究班のホームページの更新を頻回に行い、閲覧者の最も多い入り口であるQ&Aコーナーの改訂と内容追加、他の関連学会や団体のホームページとのリンクなども徐々に実施さ

れている。妊婦へのアンケート調査から、妊婦の HIV 感染に関する知識レベルは経時的にも地域的にも非常に低いまま経過している。全国の定点調査施設や奈良市内の有床診療所において、初診時の妊娠初期にリーフレットを配布することで、妊婦の知識レベルの向上に寄与できるかどうかを、令和2年度の本アンケート調査により検証したが、設問文の不備から明確な効果を確認することはできなかった。しかしながらリーフレットの高い通読率と高い理解度が確認されたことから、教育啓発効果は確実に期待できると推測された。

2) HIV による母子感染が十分に予防可能であることが周知されたことで、妊婦における HIV スクリーニング検査が妊娠初期の重要な検査のひとつとして認知された。その一方で、未受診妊婦の存在、妊娠中期から後期での妊婦の感染リスクに対する再検査の必要性、若者に対する HIV 母子感染予防のための教育啓発など、予防対策には改善の余地がある。

3) 今なお母子感染例は、毎年 1~2 例報告され続けている。特に、妊娠初期 HIV スクリーニング検査が陰性であったため、母子感染予防対策が実施されなかった例での母子感染例が多数を占めている。反対に妊娠初期・中期までに HIV 感染が判明している例からの母子感染例はなく、現在われわれが推奨している母子感染予防対策を全て実施すれば、母子感染は予防可能であることが証明された。今後母子感染ゼロを目指すためには、妊娠中・後期や授乳中に HIV 感染の可能性がゼロではないと考えられる例に対しては、積極的に複数回の HIV スクリーニング検査を施行すべきである。

4) わが国の HIV 感染女性および出生児に関する情報の蓄積は、唯一本研究班によるところであり、貴重である。産婦人科および小児科における全国調査と多施設コホート研究により、今後も正確な情報の蓄積と管理が必要である。

5) 「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン」改訂第2版を刊行した。HIV 診療は、産科医・

内科医とともに、助産師、看護師、薬剤師、コメディカルがチームで対応する必要がある。そのためガイドラインとマニュアルは適時併用して HIV 感染妊娠の診療に対応することが肝要である。感染妊娠への診療体制に関する全国調査結果を考慮し、HIV 感染妊娠の経膈分娩に関する記載は慎重な内容とした。医療従事者への教育啓発とともに、医療体制の現状に配慮しその混乱を招くことのないようガイドラインの改訂を行った。

6) HIV 感染妊娠の分娩様式の選択において、世界的には経膈分娩を許容していく流れにあるが、わが国における HIV 感染妊婦への経膈分娩の適応には、国内のエイズ診療拠点病院や周産期医療センターの現状調査結果から多くの課題が残る。今後、安全に HIV 感染妊婦の経膈分娩を導入するためには、患者や医療従事者への教育啓発とともに、スタッフ確保などの医療体制の整備も推進する必要がある。

7) HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関して、高校生や大学生を対象とした公開講座やリーフレット・小冊子による地域的・定点的介入を発端として、国民全体の知識レベルの向上をめざしたい。またホームページ、フェイスブック・ツイッターなどの SNS、マスコミの活用による広域的な周知拡散方法をさらに検討すべきである。

8) 全国調査への回答のウェブ化が従来調査以上に回答率や精度が担保できるかを、ハイブリッド方法により検証する必要がある。またコホート研究のシステム支援では、個人情報の保護に関する規制強化に対応していく必要がある。

## E. 結論

HIV 感染妊娠に関する全国調査とデータベースの更新、マニュアルやガイドラインの改訂、性感染症に関する若者向けリーフレットや小冊子の刊行などが予定通り実施できた。今後は HIV 感染妊娠の減少が期待される。妊娠中や授乳中の HIV 感染による母子感染予防対策の必

要性が明確になった。医療レベルや医療経済事情および国民性などのわが国の特徴に沿った HIV 感染妊娠への診療体制の構築が必要である。同時に HIV 感染をはじめとする性感染症に関する医療従事者や一般国民の知識の向上が不可欠であり、この向上により HIV 感染妊婦の受け入れや経膈分娩などへの対応が可能となり、妊婦の利益と医療従事者の安全性が担保された診療体制が整備できると考える。

## F.健康危険情報

特記事項なし

## G.研究業績

### 著書

1. 喜多恒和、杉浦 敦、谷村憲司. C.周産期感染症の管理－母子感染対策－ 12 HIV 感染症. 産婦人科感染症マニュアル（一般社団法人日本産婦人科感染症学会編） 金原出版 東京 pp304-312, 2018
2. 喜多恒和、石橋理子. C.周産期感染症の管理－母子感染対策－ 11 劇症型 A 群連鎖球菌感染症. 産婦人科感染症マニュアル（一般社団法人日本産婦人科感染症学会編） 金原出版 東京 pp299-303, 2018
3. 山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、千田時弘、大里和広、定月みゆき、中西豊、白野倫徳、鳥谷部邦明、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、蓮尾泰之、喜多恒和. HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン. 平成 29 年度厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班編 2018
4. 山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、出口雅士、中西 豊、定月みゆき、大里和広、白野倫徳、田中瑞恵、鳥谷部邦明、千田時弘、杉野祐子、渡邊英恵、羽柴知恵子、吉野直人、杉浦 敦、廣瀬紀子、前田尚子、桃原祥人、喜多恒和. HIV 母子感染予防対

策マニュアル 第 8 版. 平成 30 年度厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班編 2019

5. 田中瑞恵. 後天性免疫不全症.小児科診療ガイドライン第 4 版（五十嵐隆編） 総合医学社 東京 pp580-589, 2019
6. 田中瑞恵. 小児の HIV 感染症.今日の小児治療指針第 17 版（水口雅編） 医学書院 東京 pp330, 2020
7. 白野倫徳、山田里佳、喜多恒和. 産科編 II. 妊娠関連疾患 HIV 感染症. 臨床婦人科産科 2020 増刊号 産婦人科処方のすべて 2020 症例に応じた実践マニュアル 医学書院 東京 pp288-290, 2020
8. 喜多恒和. E. 女性医学 6.感染症 5) STI (5) HIV. 産婦人科専門医のための必修知識 2020 年度版（編集・監修 公益社団法人日本産科婦人科学会） 株式会社杏林舎 東京 ppE88-E90, 2020
9. 田中瑞恵. HIV 感染症. 小児感染免疫学（一般社団法人 日本小児感染症学会編） 朝倉書店 東京 pp.534-541, 2020
10. 田中瑞恵. 小児、青少年期における抗 HIV 療法（四本美保子、白阪琢磨編） 抗 HIV 治療ガイドライン 令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業 抗 HIV 治療ガイドライン HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班 東京 in press
11. 吉野直人、田中瑞恵、岩動ちず子、伊藤由子、大里和広、小山理恵、杉浦敦、喜多恒和. HIV 感染児の診療に関する全国調査. 日本エイズ学会誌 In press

### 論文

(欧文)

1. Yoshino N, Takeshita R, Kawamura H, Sasaki



Y, Kagabu M, Sugiyama T, Muraki Y, Sato S.  
Mast cells partially contribute to mucosal  
adjuvanticity of surfactin in mice. *Inflamm Dis* 6: 117-127, 2018

2. Yamanaka J, Nozaki I, Tanaka M, Uryuu H, Sato N, Matsushita T, Shichino H: Moyamoya syndrome in a pediatric patient with congenital human immunodeficiency virus type 1 infection resulting in intracranial hemorrhage. *J of Infect Chemother* 24: 220-223, 2018
3. Kagabu M, Yoshino N, Saito T, Miura Y, Takeshita R, Murakami K, Kawamura H, Baba T, Sugiyama T. The efficacy of a third-generation oncolytic herpes simplex viral therapy for an HPV-related uterine cervical cancer model. *Int J Clin Oncol*. 2020, Nov 4. doi: 10.1007/s10147-020-01823-6.

(和文)

1. 扇谷綾子、安原 肇、竹田善紀、石橋理子、平野仁嗣、京谷有希子、酒井直子、喜多恒和、箕輪秀樹：『妊娠・授乳と薬のデータベース』作成と運用における課題。日本周産期・新生児医学会雑誌 54：60-65, 2018
2. 石橋理子、喜多恒和。周術期感染症を含む重症感染症 劇症型A群レンサ球菌感染症 (GAS)。臨床婦人科産科 72：166-171, 2018
3. 谷口晴記、山田里佳、喜多恒和、塚原優己：産婦人科感染症の診断・管理～その秘訣とピットフォール。臨床婦人科産科 72：88-92, 2018
4. 谷口晴記、白野倫徳、山田里佳、塚原優己：HIV 母子感染予防のための薬物療法。周産期医学 48：101-104, 2018
5. 杉浦 敦、喜多恒和：特集周産期と医療安全 感染予防。周産期医学 49：702-705, 2019
6. 杉浦 敦：近年の HIV 感染妊娠、特に母子感染例におけるその臨床的・疫学的検討。

産科と婦人科「若手の最新研究紹介コーナー」 86：371-373, 2019

7. 喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、定月みゆき、桃原祥人：HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究。平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究 総括研究報告書 福武勝幸編 76-79, 2019
8. 山田里佳、白野倫徳、谷口晴記、喜多恒和：特集母子感染症の必修知識—エキスパートに学び予防につなげる HIV 母体管理—分娩管理を含めて。小児内科、52：96-100, 2020
9. 田中瑞恵：HIV 母体児への対応とフォローアップ。小児内科、52：101-104, 2020
10. 佐道俊幸、石橋理子、喜多恒和：特集/【必携】専攻医と指導医のための産科診療到達目標 病態・疾患編【合併症妊娠】血液疾患：特発性血小板減少性紫斑病。周産期医学 50：1435-1437, 2020
11. 喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、定月みゆき、桃原祥人、大津洋：HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究。令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業の企画と評価に関する研究 総括研究報告書 福武勝幸編 116-119, 2020
12. 山田里佳 白野倫徳 谷口晴記 喜多恒和：HIV 母体管理—分娩管理を含めて。小児内科 52：96-100, 2020
13. 田中瑞恵：HIV 母体児への対応とフォローアップ。小児内科 52：101-104, 2020
14. 島田真実、田中瑞恵、大田 倫美、渥美 ゆかり、本田 真梨、吉本 優里、大熊喜彰、

兼重昌夫、瓜生英子、山中純子、水上愛弓、五石圭司、佐藤 典子、七野 浩之：結核とリンパ球性間質性肺炎の鑑別に肺生検が有用であった HIV 感染児の二例. 日本小児科学会雑誌 124(7) : 1107-1113, 2020

15. 山田里佳、谷口晴記：HIV 感染症. 臨床と微生物 48 : 71-76, 2021
16. 杉野祐子、定月みゆき、谷口 紅、鈴木ひとみ、池田和子、大金美和、中西美紗緒、菊池 嘉、岡 慎一：国立国際医療研究センター (NCGM) における挙児希望 HIV 感染女性の妊娠方法. 日本性感染症学会学会誌 in press

#### 学会発表

##### <シンポジウム>

1. 杉浦 敦、市田宏司、山中彰一郎、竹田善紀、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、大津 洋、外川正生、喜多恒和：(日本エイズ学会との Joint Symposium) HIV 感染予防の最近の話題－PrEP、U=U などの話題とともに－最近の HIV 母子感染の動向. 日本性感染症学会第 32 回学術大会. 京都、2019.11
2. 山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、白野倫徳、出口雅士、中西 豊、鳥谷部邦明、大里和広、千田時弘、杉野祐子、羽柴知恵子、渡邊英恵、定月みゆき、田中瑞恵、喜多恒和：(日本エイズ学会との Joint Symposium) HIV 感染予防の最近の話題－PrEP、U=U などの話題とともに－HIV 母子感染予防マニュアルについて－挙児希望 HIV 感染者の感染予防の紹介－. 日本性感染症学会第 32 回学術大会. 京都、2019.11
3. 喜多恒和：(市民公開講座) HIV 母子感染の現状. 市民公開講座「感染症から母子を守るために」. 沖縄、2020.2

##### <一般演題>

1. 杉浦 敦、中西美紗緒、市田宏司、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、喜多恒和：本邦の医療施設において HIV 感染妊娠の経膣分娩は可能か？. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城. 2018.5
2. 山田里佳、喜多恒和、谷口晴記、井上孝実、千田時弘、大里和広、鳥谷部邦明、中西 豊、定月みゆき、白野倫徳、塚原優己、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、蓮尾泰之：わが国独自の HIV 母子感染予防対策ガイドラインの策定について. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城. 2018.5
3. 林 彩世、上野山麻水、緒方佑莉、赤羽宏基、栗野 啓、大西賢人、中西美紗緒、高本真弥、大石 元、定月みゆき、山澤功二、矢野 哲：HIV 陽性患者における CIN 発症頻度の検討. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城. 2018.5
4. 林 公一、蓮尾泰之、明城光三、五味淵秀人、宗 邦夫、喜多恒和：本邦における HIV 感染妊婦の経膣的分娩の受け入れ対応について－国内分娩施設における経膣分娩受け入れ可否の現状調査－. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城. 2018.5
5. 吉野直人、伊藤由子、大里和広、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の変遷と背景. 第 35 回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 岐阜. 2018.5
6. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、高橋尚子、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、田中瑞恵、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和：未受診妊婦への HIV スクリーニングの現状－妊婦 HIV スクリーニング検査に関する全国調査. 第 35 回日本産科婦人科感染症学会学

- 術集会. 岐阜. 2018.5
7. 竹田善紀、杉浦 敦、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、榎本美喜子、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和: 近年における HIV 感染判明後妊娠の現状. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜. 2018.5
  8. 杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和: HIV 感染初産婦における分娩様式に関する検討. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜. 2018.5
  9. 竹田善紀、杉浦 敦、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、佐久本薫、石橋理子、吉野直人、喜多恒和: 近年の HIV の母子感染例に関する臨床的・疫学的検討. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京. 2018.7
  10. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、高橋尚子、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、田中瑞恵、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和: 妊婦 HIV 検査と HIV 母子感染の日本の現状—HIV 感染妊娠に関する全国疫学調査. 第 72 回国立病院総合医学会. 神戸. 2018.11
  11. 伊藤由子、吉野直人、大里和広、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和: 未受診妊婦に対する HIV スクリーニング検査状況～全国調査の結果より～. 第 72 回国立病院総合医学会. 神戸. 2018.11
  12. 林 公一、明城光三、五味淵秀人、宗 邦夫、中山香央、蓮尾泰之、喜多恒和: HIV 感染妊婦に関する診療ガイドラインの刊行に当たり. HIV 感染妊娠における経膈的分娩の受け入れ可能施設の現状について. 第 72 回国立病院総合医学会. 兵庫. 2018.11
  13. 杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和: 妊娠中・分娩後に HIV 感染が判明した 194 例の臨床的疫学的解析. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.12
  14. 田中瑞恵、外川正生、兼重昌夫、細川真一、前田尚子、寺田志津子、七野浩之、吉野直人、杉浦 敦、喜多恒和: 小児 HIV 感染症の発生動向と今後の課題. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.12
  15. 桃原祥人、杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和: 妊娠初期 HIV スクリーニング検査陰性例から生じた母子感染に関する検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.12
  16. 山田里佳、喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、定月みゆき、桃原祥人、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、千田時弘、大里和広、中西 豊、白野倫徳、鳥谷部邦明、杉野祐子、羽柴知恵子、出口雅士: HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン初版と HIV 母子感染マニュアル第 7 版の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.12
  17. 吉野直人、伊藤由子、大里和広、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和: 過去 19 年間の妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の比較と母子感染対策への取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪.

2018.12

18. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、高橋尚子、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、田中瑞恵、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニングにおける未受診妊婦の問題--妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.122.
19. 杉野祐子、木下真里、小山美樹、谷口 紅、池田和子、大金美和、中西美紗緒、瀧永博之、菊池 嘉、定月みゆき、岡 慎一：国立国際医療研究センター（NCGM）における HIV 感染妊婦の転機と出産場所に関する検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会. 大阪. 2018.12
20. 田中瑞恵：HIV 母子感染の現状と今後の課題.国際母子カンファレンス. 東京、2019.1
21. Sugiura A, Ichida H, Nakanishi M, Minoura S, Matsuda H, Takano M, Momohara Y, Sakumoto K, Ohta H, Ishibashi S, Takeda Y, Kita T: Mother to child transmission of HIV in Japan during the antiretroviral therapy (ART) era. 第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋、2019.4
22. 山田里佳、喜多恒和、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、千田時弘、大里和広、中西 豊、定月みゆき、鳥谷部邦明、杉浦 敦、桃原祥人、出口雅士：日本における HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン初版と HIV 母子感染予防対策マニュアル第 7 版の改訂について. 第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋、2019.4
23. 大里和広、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニングと未受診妊婦の問題点—妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査. 第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋、2019.4
24. 桃原祥人、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、塚原優己、渡邊英恵、羽柴知恵子、廣瀬紀子、佐野貴子、鈴木ひとみ、長與由紀子、谷村憲司、森實真由美、木内 英、喜多恒和：妊婦健診における HIV 検査の公費負担及び母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎、2019.5
25. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、谷口晴記、桃原祥人、定月みゆき、塚原優己、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査における未受診妊婦の HIV スクリーニングの状況. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎、2019.5
26. 杉浦 敦、山中彰一郎、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 母子感染の国内分娩例に関する検討. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎、2019.5
27. 山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、白野倫徳、出口雅士、中西 豊、鳥谷部 邦明、大里和広、千田時弘、杉野祐子、羽柴知恵子、渡邊英恵、杉浦 敦、吉野直人、定月みゆき、田中瑞恵、桃原祥人、喜多恒和：「HIV 母子感染マニュアル第 8 版」改訂内容について. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎、2019.5
28. 杉浦 敦、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、高野政志、桃原祥人、佐久本 薫、石橋理子、松田秀雄、吉野直人、喜多恒和：HIV 感染妊娠と早産に関する検討. 第 55 回日本周産期・新生児学会学術集会. 松本、2019.7
29. 桃原祥人、吉野直人、大里和広、小山理恵、塚原優己、谷村憲司、森實真由美、木内 英、

- 喜多恒和：HIV 母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査. 第 55 回日本周産期・新生児学会学術集会. 松本、2019.7
30. 鳥谷部邦明、谷口晴記、吉野直人、杉浦 敦、定月みゆき、桃原祥人、出口雅士、大里和広、喜多恒和：日本における HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン初版と HIV 母子感染予防対策マニュアル第 7 版の改訂. 第 55 回日本周産期・新生児学会学術集会. 松本、2019.7
  31. 大里和広、吉野直人、小山理恵、杉浦 敦、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査における未受診妊婦の問題. 第 55 回日本周産期・新生児学会学術集会. 松本、2019.7
  32. 定月みゆき、中西美紗緒、蓮尾泰之、林 公一、喜多恒和：HIV 感染妊娠の経陰分娩導入に関してわが国が抱える診療体制の課題. 第 55 回日本周産期・新生児学会学術集会. 松本、2019.7
  33. 喜多恒和、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、定月みゆき、桃原祥人、大津 洋：HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究. 令和元年度エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究 厚生労働省エイズ対策政策研究事業 日本医療研究開発機構エイズ対策実用化研究事業合同研究成果発表会. 東京、2019.8
  34. 伊藤由子、吉野直人、大里和広、小山理恵、高橋尚子、喜多恒和：梅毒感染妊婦に関する全国調査. 第 50 回日本看護学会. 長野、2019.9
  35. 桃原祥人、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、塚原優己、渡邊英恵、羽柴知恵子、廣瀬紀子、佐野貴子、鈴木ひとみ、長與由紀子、津國瑞紀、浅野 真、谷村憲司、森實真由美、木内 英、喜多恒和：HIV 母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査と今後の啓発活動の考察. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
  36. 杉浦 敦、山中彰一郎、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、藤田 綾、高橋尚子、大津 洋、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：本邦における HIV 感染妊娠の将来予測. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
  37. 竹田善紀、杉浦 敦、山中彰一郎、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 感染の判明時期が妊娠後期・分娩後であった症例に関する検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
  38. 白野倫徳、山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、出口雅士、中西 豊、鳥谷部邦明、大里和広、千田時弘、杉野裕子、羽柴知恵子、渡邊英恵、杉浦 敦、吉野直人、定月みゆき、田中瑞恵、桃原祥人、喜多恒和：HIV 母子感染予防の cART ～「HIV 母子感染予防対策マニュアル (第 8 版)」および「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン (初版)」より～. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
  39. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、小山理恵、高橋尚子、杉野 敦、田中瑞恵、山田里佳、谷口晴記、桃原祥人、定月みゆき、塚原優己、喜多恒和：未受信妊婦の HIV スクリーニングの現状--妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査より. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
  40. 吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、外川正

- 生、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査陽性症例の診療対応－産婦人科全国調査－. 第 33 回日本エイズ学会学術集会 熊本、2019.11
41. 吉野直人、田中瑞恵、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、外川正生、喜多恒和：HIV 感染児の診療対応－小児科全国調査－. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
42. 伊藤由子、吉野直人、杉浦 敦、大里和広、小山理恵、高橋尚子、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、喜多恒和：HIV および梅毒感染妊婦に関する全国調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
43. 大津 洋、田中瑞恵、佐々木泰治、北島浩二、杉浦 敦、吉野直人、喜多恒和：本邦の HIV 感染妊娠の母子調査における患者報告データを併用したリアルワールド情報収集に向けた取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本、2019.11
44. 吉野直人、佐々木裕、小田切崇、杉山育美、松本有機、菅野祐幸、佐塚泰之、村木靖：全粒子不活化インフルエンザウイルスに対する安全な新規粘膜アジュバントとしてのクロシン. 第 13 回次世代アジュバント研究会 (2020.1 大阪)
45. 杉浦 敦、市田宏司、山中彰一郎、竹田善紀、佐久本薫、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、太田 寛、喜多恒和：本邦での HIV 感染妊娠の分娩様式に関する検討. 第 72 回日本産科婦人科学会学術講演会. 東京 (Web)、2020.4
46. 小田切崇、吉野直人、佐々木裕、村木靖。ポリミキシン B を用いた経鼻インフルエンザワクチンの開発. 東北乳酸菌研究会. Web、2020.10
47. 田中瑞恵、外川正生、兼重昌夫、細川真一、寺田志津子、前田尚子、七野浩之、吉野直人、杉浦 敦、喜多恒和：小児 HIV 感染症の発生動向および診断時の状況の変遷. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. Web、2020.11
48. 岩動ちず子、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、喜多恒和：HIV および妊婦感染症検査実施率の全国調査. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. Web、2020.11
49. 伊藤由子、吉野直人、杉浦 敦、岩動ちず子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、喜多恒和：HIV スクリーニング検査実施率と妊娠中後期での再検査の検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. Web、2020.11
50. 定月みゆき、杉野裕子、蓮尾泰之、林 公一、五味淵英人、中西 豊、中西美紗緒、源 奈保美、中野真希、山田里佳、吉野直人、杉浦 敦、田中瑞恵、大津 洋、喜多恒和：HIV 感染妊婦への診療体制の現状と経膈分娩導入への課題. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. Web、2020.11
51. 杉浦 敦、市田宏司、竹田善紀、山中彰一郎、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本 薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、吉野直人、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 母子感染例に関する検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. Web、2020.11
52. 村上 暉、佐道俊幸、樋口 渚、渡辺しおか、石橋理子、吉元千陽、喜多恒和：妊娠初期に梅毒と診断し適切に治療することで先天梅毒を防ぐことができた一例. 日本性感染症学会第 33 回学術大会. 東京 (Web)、2020.12
53. 吉野直人、佐々木裕、小田切崇、杉山育美、松本有機、菅野祐幸、佐塚泰之、村木靖。全粒子不活化 A 型インフルエンザウイルス

に対するクロシンの粘膜アジュバント作用.  
第 24 回日本ワクチン学会. Web、2020.12

H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得       なし
- 2.実用新案登録   なし
- 3.その他   なし